

第1号議案 令和4年度事業報告に関する件

【はじめに】

令和元年度末から始まった新型コロナウイルスの感染流行による旅行制限などにより、当協会や関係団体の活動も中止や延期を余儀なくされる中、令和4年2月に始まったロシアによるウクライナ軍事侵攻により、エネルギーや食料不足などによるインフレが進行し、令和4年度は経済的に厳しい中で、引き続きナショナルトラストによるヤイロチヨウの森の取得・保全調査・普及啓発・持続可能な活用について取り組みました。大規模な開発計画である四万十の尾根筋における風力発電計画への対応に加えて、ヤイロチヨウのさえずりの町づくりの推進を継続するとともに、令和3年9月に着手した、外来種・サバンナによるヤイロチヨウなどに在来種の被害実態調査、捕獲&飼育実験について、資金不足を補うため企業や行政の協力を求めて、令和5年度も引き続き続いて実施したいと考えています。

【トラストの森の拡充と調査・保全・パトロール等の取り組み】

1. 大藤風力発電計画については、当協会などが事業者であるオリックスに渡り鳥の安全が確認されるまで計画を進めないよう申し入れた結果、2022年5月に計画の撤回が発表されました。
2. ヤイロチヨウの森の生物多様性を保全するため、令和3年度に続いて令和4年度も高知県の補助金を申請し、外来種・サバンナによる影響調査の活動に取り組みました。
3. 財政上の理由から、来訪者数が減る冬季間の12月末～3月末まで、ナイチャーセスターを休館しました。

【自然林再生とワンダラーランドの森整備の取り組み】

1. ワンダラーランドの森の周辺で、継続して原木シイタケの森づくり、ニホンミツバチの繁殖が進むよう講師を招いて観察会等を行いました。
 2. 王子ホールディングスの森に隣接して設置したトレッキングコース等を活用して、講師を招いてヤイロチヨウの餌となっているミミズなどの生態系調査や、観察イベントを行いました。
 3. 奥四万十地域で20年以上行われてきたフツボソウの里づくりを応援し、希望者を対象にナイチャーセスターから車による観察会を行ったほか、巣箱づくりや巣箱かけのイベントも行いました。
- 【企業・行政・他団体と協力した森や水辺の保全活動&PR活動】
1. 山崎技研などの協賛を得て、2021年に続いて、「2022年ヤイロチヨウの森を未来に！ぬりえ・絵画・作文コンクール」を実施しました。
 2. 8月16日「ヤイロチヨウの日記念イベント」では、これまで関心が薄かった土の中に暮らしているミミズなどの生物の観察を行いました。

【出版活動等の強化・拡充】

1. 発行が延期になっていた中西悟堂協会編の『野鳥居』11号を5月中に発行しました。
2. 協会設立30周年を前に、「生コン事件」から俯瞰して、高知県の歴史的な自然保護・生態系保全活動について、エッセイを中心に『森のしずく文庫』として出版する計画に着手しました。
3. 会報誌「森のしずく」を年4回発行しました。